

学科名	学年	教科	科目	単位数	教科書	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
海洋科	1年	水産	海洋情報技術	2	海洋情報技術(実教出版)				
科目の目標	社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させるとともに、情報機器や情報通信ネットワークに関する知識と技術を習得させ、水産や海洋の各分野で情報技術を主体的に活用する能力と態度を育てる。								
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解					
	情報や情報社会に関心を持ち、身のまわりの問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用し、社会の情報化の進展に主体的に対応しようとする。	情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために、情報に関する科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて、思考を深め、適切に判断し表現している。	情報及び情報技術を水産や海洋の各分野で活用するための基礎的・基本的な技能を身に付け、目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱っている。	情報及び情報技術を水産や海洋の各分野で活用するための基礎的・基本的な知識を身に付け、社会における情報及び情報技術の意義や役割を理解している。					
単元名	項目名	学習到達目標		補助教材	評価方法				
産業社会と情報技術	情報化の進展と社会生活	・情報技術が水産や海洋にどのように関わっているか、興味を持ち、理解できる。			生徒観察	○			○
	情報化の社会的影響	・コンピュータを利用して情報収集を行う上で必要とされる、個人情報の取り扱いとマナーについて理解できる。			生徒観察		○		○
情報モラルとセキュリティ	著作権と個人情報の保護	・情報の不正流用や著作物に伴う権利について正しく理解できる。			生徒観察		○		○
	ネットワーク上のモラル	・公私のけじめ、匿名性がもたらす功罪について正しく理解できる。			生徒観察		○		○
情報機器の仕組みと情報の表現	IDとパスワード	・IDとパスワードによる、ネットワーク上での認証と漏洩によって起きる危険性について理解できる。			生徒観察 ノート添削		○		○
	情報機器の仕組み 情報のデジタル化と情報処理	・情報機器とコンピュータの機能について理解できる。 ・アナログとデジタルの違い、デジタル化の特徴を理解できる。 ・2進数、16進数の概念を理解し、10進法との相互変換について理解できる。 ・基礎論理回路、組み合わせ論理回路について理解できる。 ・音声の標本化、量子化、符号化、周波数などについて理解できる。			生徒観察 生徒観察 生徒観察 電子ファイルの提出		○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○
ソフトウェア	アプリケーションとOS	・アプリケーションとOSに興味を持ち、利用方法を理解できる。 ワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーション、データベース、グラフィックス		ポイントでマスター基礎からはじめる情報リテラシー2013 Word Excel	生徒観察 ノート添削	○	○	○	○
船内通信機器	実習船搭載の情報通信機器	無線通信や無線電話などの搭載機器の基礎について理解できる。			生徒観察	○			○
ソフトウェア	プレゼンテーション	・「水産工学」の基礎的内容について、情報収集しレポートにまとめることができる。		ポイントでマスター基礎からはじめる情報リテラシー2013 PowerPoint	電子ファイルの提出 生徒観察 発表・板書	○	○	○	○
情報通信ネットワーク	情報通信ネットワークの概要と活用	・情報通信ネットワークの形態について理解できる。 ・情報の検索・収集、分析、伝達、発信について理解できる。			生徒観察 生徒観察	○ ○			○ ○
水産や海洋における情報の応用	海洋の環境情報システム 海洋の観測・測量システム	・海洋の環境情報および情報システムについて理解できる。 ・海洋における海洋観測について理解できる。			生徒観察 電子ファイルの提出	○ ○			○ ○
	船舶運航の計測・制御システム	・船舶自動識別システムによる運航管理について興味を持ち、理解できる。 ・電子制御の航行システムの進歩と活用について理解できる。			生徒観察 生徒観察 ノート添削	○ ○			○ ○
船舶運航の通信システム1	船舶運航の通信システム1	・無線電話およびその他の通信システムについて興味を持ち、理解できる。			生徒観察	○			○
	船舶運航の通信システム2	・重要通信および信号方法について基礎的な送受信を理解できる。			リスニングテスト		○		○
防災および安全システム	防災および安全システム	・船内外通信および防災システムの各機器について理解できる。		ポイントでマスター基礎からはじめる情報リテラシー2013	生徒観察 電子ファイルの提出		○		○
	水産情報システム	・資源管理、水産物取引、漁場と漁況、飼育技術、食品流通の情報システムについて理解できる。			生徒観察	○			○